

2024年度 病院経営の状況

令和 8 年 (2026 年) 1 月 21 日
平塚市病院運営審議会
経営企画課

【2024年度】全国の病院経営状況

◆過去20年で最悪の水準

2024年度の日本の病院経営は、過去20年で最悪の水準に陥っており、非常に厳しい状況。民間病院の過半数が営業赤字で、債務超過に陥る病院も増加している。

◆債務超過の割合

約14%の病院が債務超過に陥り、前年度から大幅に増加している。これは、高額な医療機器の導入による借入金負担が増える一方で、十分な収益が確保できないことが主な原因。

◆医業利益率

2024年度の医業利益率は平均マイナス7.2%と、前年度のマイナス6.6%からさらに悪化している。医業利益が赤字の病院の割合は73.8%に達し、経常利益も悪化傾向にある。

【2024年度】大学病院の経営状況

◆2024年度の大学病院経営は厳しい状況

全国の大学病院(81病院)の経常損益は合計で508億円の赤字で、前年度から340億円悪化しており、経常赤字率は1.5%と、前年度の0.5%から1.0ポイント悪化している。

● 赤字の内訳

設立主体	病院数	経常損益	黒字病院数	赤字病院数
国立	42	▲286億円	12	30
公立	8	▲91億円	1	7
私立	31	▲131億円	11	20

◆国立病院は大幅に悪化

国立大学病院の2024年度の経常損益は285億円のマイナスとなり、2023年度のマイナス60億円から大幅に悪化した。

【2024年度】自治体病院の経営状況

◆赤字経営の現状

全国自治体病院協議会の調査によると、2024年度には自治体病院の86%が経常収支赤字、95%が医業赤字に陥っている。

また、総務省の発表では、全国678の公立病院事業全体の経常収支は、過去最大の3,952億円の赤字となり、赤字病院の割合は83.3%だった。

これは2023年度の赤字額である2,099億円から大幅に増加している。

◆病院規模別の影響

以前は中小規模の病院に赤字が集中する傾向があったが、2024年度の調査では、400床以上の急性期医療を担う大規模病院ほど赤字が拡大していることが分かっている。感染症指定医療機関やへき地医療拠点病院、災害拠点病院、救命救急センターなど、政策医療を担う多くの病院が赤字に直面している。

【自治体病院】今後の見通しと要望

◆今後の見通しと要望

全国自治体病院協議会の望月会長は、2025年度も経営状況はさらに厳しくなるとの見通しを示しており、このままでは地域の基幹病院の医療機能維持が困難になり、医療崩壊につながる危険性があると警鐘を鳴らしている。

この状況に対し、自治体病院側は以下の対策を国に要望している。

- ・診療報酬の大幅な引き上げ(特に人件費高騰をカバーするため)
- ・病院建設費補助単価のさらなる引き上げ
- ・不採算医療(小児、周産期、救急など)を担う病院への財政措置の拡充
- ・医療材料費や医療機器・保守委託費に係る消費税のゼロ税率適用または課税売上への変更

県・国からの支援

◆病院経営緊急支援金(神奈川県)

救急病院(県立を除く)に対し稼働病床1床あたり一定額を給付

◆医療・介護等支援パッケージ(国補正予算)

・賃上げ・物価上昇に対する支援

基礎的支援として1床あたり合計19.5万円が交付

(内訳:賃金分8.4万円、物価分11.1万円)

・救急医療に対する支援

・その他「ICT機器導入による生産性向上支援」「産科・小児科への支援」あり



補正予算への評価

日本医師会は、今回の補正予算案について「医療界全体による切実な訴えが大きく実を結んだ」と評価しているが、補正予算はあくまで一時的な「止血」であり、2026年度の診療報酬改定で物価高騰や賃上げに対応した「根治治療」が必要であるとの見解も示している。

2026年度診療報酬改定の内容に注視していく